

ソーシャルコミュニティデザイナー認定プログラムにおけるID手法に基づいたインターンシッププログラム設計

Designing an Internship Program Based on the Instructional Design Method for the Social Community Designer Certified Program

半田 純子, 新目 真紀, 長沼 将一, 権藤 俊彦, 山根 信二, 玉木 欽也

Junko HANDA, Maki ARAME, Shoichi NAGANUMA, Toshihiko GONDO, Shinji YAMANE*,
Kinya TAMAKI

青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター, 岡山理科大学*

Aoyama Gakuin University Human Innovation Research Center, Okayama University of Science

＜あらまし＞ 近年、大学生においてインターンシップの参加希望者が増加しているが、大学と企業が連携して実践的なインターンシップを行うということは、あまり実施されていないのが、現状である。本発表では、青山学院大学のソーシャルコミュニティデザイナー認定プログラムにおいて、大学と企業が連携し、インストラクショナルデザイン手法に基づき、コンピテンシーを各活動にあて、実践的なインターンシップを設計している取り組みについて述べる。

＜キーワード＞ インターンシップ, 産学連携, ソーシャルコミュニティデザイナー, ID

1. 背景

近年、大学および高等専門学校において、インターンシップを実施する大学の増加が報告されている。実際、文部科学省の調査によると、単位認定を行っている大学等は、平成 10 年度に 23.7% (大学数 143 校)、平成 19 年度に 67.7% (大学数 504 校)であったが、平成 23 年度には、70.5% (大学数 544 校) にまで達した。インターンシップを体験した学生の割合は、平成 10 年度には、0.6%であったが、平成 19 年度に 1.8%で平成 23 年度には 2.2%となった。このように、インターンシップを実施する大学の増加が報告されているが、インターンシップを体験した学生の割合は、まだ全学生数に対しては 5%にも達していない状況である。

2. インターンシップにおける課題

インターンシッププログラムへの参加の増加が報告される一方で、インターンシッププログラムにおける課題も指摘されている。インターンシップを受け入れる企業の拡大のために、企業に受け入れられやすいプログラムの構築の必要性が挙げられており、インターンシップの内容においては、企業任せになり、教育的支援の不足が見られるなど、大学等によるインターンシップへの関与が十分でないなどということが指摘されている (文部科学省, 2013)。

青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センターでは、文部科学省の平成 25 年度成長分

野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業に採択され、次世代インターネットの利用環境整備に向けた産学官連携資格認定プログラムを開発し、人材育成に取り組んできた。また、インターンシップに関する調査を行い、今後の成長分野として期待される情報通信サービス業界の企業が、社会科学系の学生向けに実践的インターンシッププログラムを実施することができるようインターンシップガイドラインを作成した。その調査においても、以下のような課題が挙げられた。(1)待遇や学生の扱い、情報の不足など企業側に改善が必要な問題(2)実施時期と授業との兼ね合いなど、大学と企業の両方で改善につなげられなければならない問題(3)インターンシップの効果が上がるように、学生の目的意識を明確にさせるなど大学と学生個人の課題 (新目, 半田, 合田, 長沼, 玉木, 2013)。先に述べた文部科学省の指摘も含め、企業と大学間で連携してインターンシッププログラムを実施することが求められている (青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター, 2013)。

3. ソーシャルコミュニティデザイナー認定プログラム

青山学院大学社ヒューマン・イノベーション研究センターでは、ソーシャルメディアを活用できる専門家人材の必要性を重視し、社会において、ソーシャルメディアを活用して有益な情報を発信するだけでなく、なりすましや流言飛語などの

問題に適切に対応できる人材の必要性を認識してきた。そこで、社会の様々な現場でインターネットの利活用にともなって発生する問題を解決することができ、ソーシャルメディアをはじめとするデジタルコンテンツ及びその適切な利用環境をデザイン及びアセスメントできる専門家」の育成を目的に、「ソーシャルコミュニティデザイナー」(SCD)という資格認定プログラムを開発し、実施している。

学生は、ソーシャルコミュニティデザイナーの資格認定科目になっている10科目から履修し、ソーシャルコミュニティデザイナーに必要な知識を習得する。認定プログラムにおいて、各科目でそれぞれ習得すべきコンピテンシーを割り当てている。その一部にインターンシッププログラムが位置付けられている。2014年8月に基礎的な知識をより実践的なものにすべく、ソーシャルコミュニティデザイナー認定プログラム参加者向けのインターンシップを実施することとした。

4.産学連携による研修プログラム開発

このインターンシップを計画するにあたり、先に文部科学省の指摘や調査結果について詳説したように、教育的支援が不足することのないように、学生を受け入れる協力企業と、事前に研修内容や教育支援の方法について産学が連携し、開発することとした。青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター(2013)が作成した実践的インターンシッププログラムガイドラインに沿って以下のような手順で準備を進めた。

まず、①事前準備として、実施時期、実施期間、実施回、受け入れ体制などを調整②待遇面で交通費・報酬、また保険加入、守秘義務などの契約面について検討③研修内容の検討。④教育支援面についての検討。

研修は、夏期休暇中(2014年8月)に、事前研修2回と実施期間5日間、事後研修1回という構成で実施する予定である。

実際の研修プログラムの設計においては、インストラクショナルデザイン手法を用い、産学で連携しながら設計を行った。まず、インターンシップ参加時までに学生が習得しているコンピテンシーをリスト化し、協力企業の担当者に学生のレベルのイメージを持ってもらった(分析)。そして、過去に実施したインターンシップの内容を参考に、研修内容を設計していった。その際に、各研修内容において、関連するコンピテンシーを割り当て、学習目標を設定した。また、実践的な現場で知識を実際に活用することをめざし、習得済みの知識をどれだけ活用できるかをコンピテンシーのカテゴリーごとに、レベル設定を行った(設計)。また、研修で使用する学生の日報シートや

インターンシッププログラムの評価項目も事前に大学主導で作成した。さらに、企業と大学が実施時においても、連携して教育的支援ができるようにeポートフォリオを用いて情報共有できるようにした(開発)。実施段階においても、担当者は、あまり一方的に説明するのではなく、学生に質問を投げかけたり、必ず学生にフィードバックを与えるように教育的な支援方法などにおいて研修担当者に認識してもらうよう大学側より促した(実施)。そして、研修実施後には、先に述べたように事前に作成した評価項目にそって、学生の成果物から担当者と教員に評価してもらう予定である(評価)。

5. まとめ

現段階では、まだ設計段階であるが、産学が連携し、コンピテンシーや研修の目標を共有しながら、インターンシッププログラムを開発した取り組みについて報告した。

6. 参考文献

青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター(2013), 平成25年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」次世代インターネット利用環境整備に向けた産学官連携資格認定プログラム 委託事業成果報告書

Retrieved July 5, 2014, from

http://www.hirc.aoyama.ac.jp/topics/wp-content/uploads/2014/05/h25chukaku_aoyama_full.pdf

新目真紀, 半田純子, 合田美子, 長沼将一, 玉木 欽也(2013)情報通信サービス業を中心とした実践的インターンシップ実施時の産学連携体制に関する考察, 教育システム情報学会 No.189,2014.

文部科学省(2011) 文部科学省平成23年度調査 Retrieved July 5, 2014, from

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/cho usa/koutou/055/gaiyou/_icsFiles/afildfile/2013/08/28/1338222_1.pdf

文部科学省(2013)「インターンシップの普及及び質的充実のための推進方策について」意見のとりまとめ. Retrieved July 5, 2014, from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/cho usa/koutou/055/gaiyou/1338222.htm

謝辞

本研究は科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)26560128(研究代表者 山根信二)の助成を受けたものである。